

IV 理学療法

片まひの理学療法，特にその中心をなす運動療法は現在大きな変革のうずの中にあるといっても過言ではない。いわばこれまでの運動療法のあらゆる理論と技術が，片まひの評価と治療という課題に直面させられて真価を試されふるいわけられ，そのようなつぼの中から，新しい運動療法理論が誕生していきつつあるのが現在の時代である。

福屋論文はそのような立場から，評価の問題を広げんに論じ，伊藤論文もまた関節可動域訓練といういわばもっとも古典的な分野でも新しい考え方に立つことの必要性を強調する。平松論文と紀伊論文は運動機能の回復促進という中心的課題にそれぞれの立場からアプローチする。藤本論文と渡辺論文は歩行訓練について，その準備の時期や装具の問題などをふくめて論じている。

理学療法のうち ADL に関するものは別のセクションで扱った。また水治，温熱，電気療法などについては他の機会にゆずった。

片まひの評価.....	福屋 靖子・456
理学療法の立場から	
片麻痺における関節可動域訓練.....	伊藤 直栄・469
特に注意すべき点について	
脳血管障害患者における制御理論的アプローチの応用.....	平松 誠・473
成人片まひ患者におけるボバース・テクニック.....	紀伊 克晶・479
片まひの歩行訓練.....	藤本 欽也・484
開始の時期と条件	
片まひにおける異常歩行の矯正.....	渡辺 洋・488